# 2009 年度　日本財団助成事業

# ジュニア・ライフセービング教室の開催および指導者養成プログラムの開発等

# 事業報告書

＜目次＞


◇ はじめに

◇ ジュニア教育の取り組みと今後の展望（継続）

◇ ジュニア・ライフセービング教室　＜実施報告＞

◇ ジュニア・ライフセービング教室における保護者の意識調査　＜調査報告＞

◇ ジュニア・ライフセービング指導指針およびジュニア・ライフセービング指導者養成システムのプログラム開発　＜実施報告＞

1) ジュニア教育委員会（会議）での協議
2) ジュニア教室・現地視察の実施
3) ジュニア指導者研修会の実施

◇ おわりに（まとめ）

# はじめに

日本ライフセービング協会（日本協会）の活動目的は「水辺の事故を限りなく減少させていく」ことであります。さらに言えば、最大のミッションは事故発生からの救命ではなく、事故防止の重要性を追求した“危険回避”にあります。

つまり、利用者に苦しみを与えないことこそが、真のライフセーバーの役割、心構えになるのです。

上記を果たす大きな役割を担うのが「教育活動」です。水辺での事故を未然に防ぐということが最大の任務とする中で、さらなる安全性の獲得を得るためには「教育」に着目するのは必然と言えるでしょう。最終的なゴールプランは、利用者自らが危険を回避する能力を有していることになります。大げさに表現するならば「ライフセーバーの必要とされないビーチ」なのです。

これらに示したビジョンの具現化を図るためには、幼少・青年期より、水辺活動を通して「安全」と「危険」を知り、理解し、実践できる能力過程を経ていくことが必要となります。当然、活動の主たる“自然”に対する敬愛の感性を浸透させることが“環境”や“いのち”を考える基礎になることは言うまでもありません。

日本協会は国際ライフセービング連盟（ILS）の日本代表機関として、幼少・青年期への自然体験活動を中心とした教育体系と年間カリキュラムの策定、指導者養成システムの構築などが、「水辺の事故ゼロ」というワールドミッションへの具体的な取り組みを果たすことに繋がると信じてやみません。

文末になりましたが、当協会における教育活動において、日本財団助成事業としての光栄なる位置づけと継続的な支援を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

特定非営利活動法人
日本ライフセービング協会

教育部担当理事　松本　貴行

# ジュニア教育の取り組みと今後の展望（継続）

日本ライフセービング協会（以下、JLA）ジュニア教育委員会（旧教育委員会及び拡大委員会）の取り組みと今後の展望についてまとめることで、当面のゴールプランを確認できるようにする。

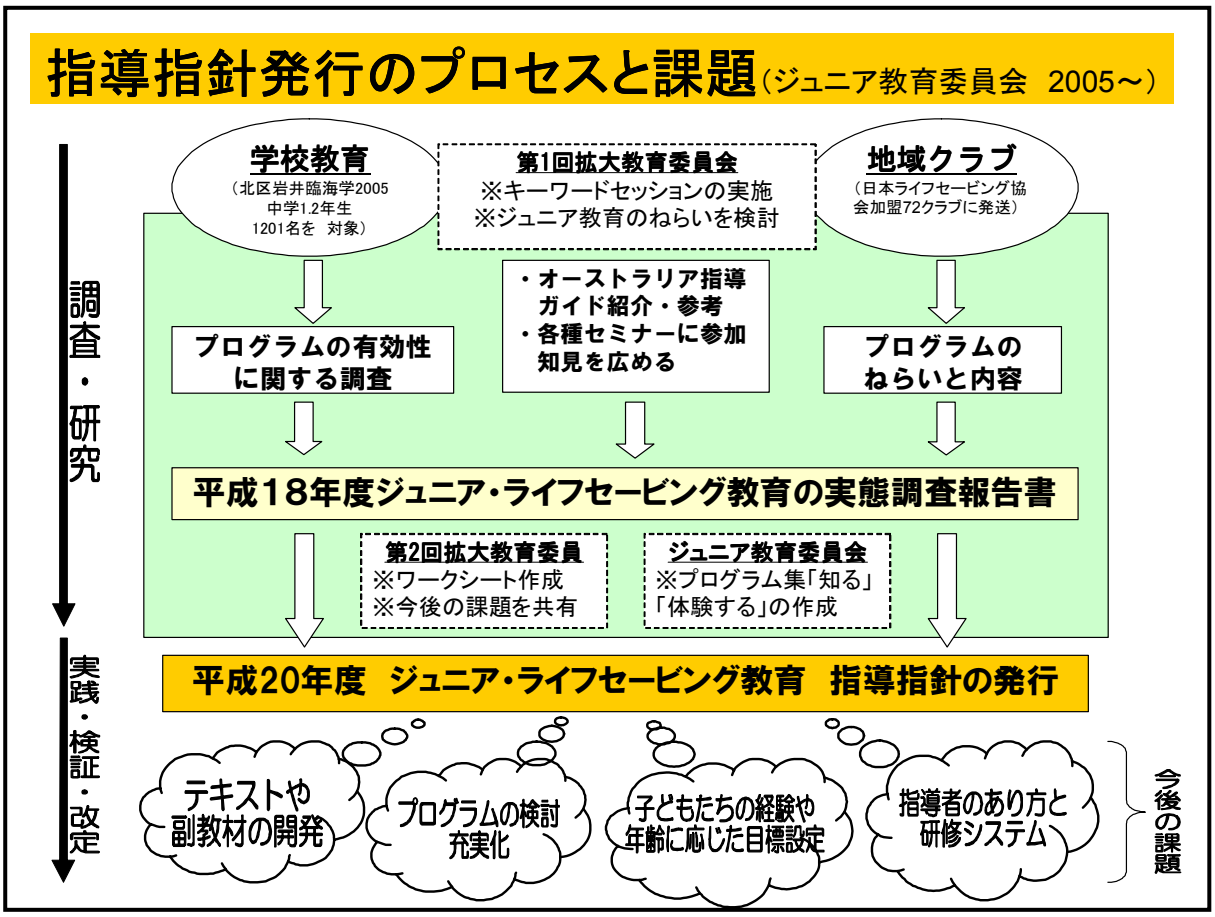


図 2-1　指導指針発行のプロセスと課題（「ジュニア・ライフセービング教育指導指針」より引用。）

＜取り組みとして＞

1）2005 年度
①キーワードセッションの実施。
②ジュニア・ライフセービング教育（以下、ジュニア教育）の「ねらい」を作成。
③ジュニア教育に関連するプログラムやシステムについて検討課題の確認。
④北区岩井臨海学園におけるアンケート調査。（プログラムの有効性）

2）2006 年度
①地域クラブにおけるアンケート調査。（プログラムのねらいと内容）
②ジュニア教育の実態調査報告書を発行。

3）2007 年度
①各クラブジュニア教育関係者によるワークシート作成。（拡大教育委員会）
②ジュニア教育指導指針を発行。

4）2008 年度
①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム開発に着手。（課題整理）
②ジュニア教育指導者研修会の開催。（参加者による教材開発を含む）
③JLA 理事長とジュニア教育委員会の会談実施。（ジュニア教育の方向性確認）

＜今後の展望として＞

1）2009 年度
①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム開発研究。（指導者研修会開催）
②ジュニア教育に関する保護者の意識調査実施。
③ジュニア教育指導指針の周知と検証。

2）2010 年度
①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム構築。（指導者研修会開催）
②ジュニア教育テキスト（教科書）と副教材の開発研究。
③ジュニア教育指導指針の周知と検証。

3）2011 年度
①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム構築と検証。（プレ養成講習会実施）
②ジュニア教育指導指針の改定作業。
③ジュニア教育テキスト（教科書）の発行。

4）2012 年度
①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム策定。（養成講習会実施）
②ジュニア教育指導指針の改定版発行。
③ジュニア教育テキスト（教科書）の周知と検証。

（資料）

# ジュニア教育委員会　2012 年度までの事業計画として（案）

1. ジュニア教室
1） 教室の実施
2） 器材の充実
- ジュニア教育の普及と全国展開
- 新規実施クラブの開拓と教育環境の整備
- 実施経験のない地域クラブに対してソフト（指導者やプログラム）・ハード（器材）面にて積極的にサポートを図る

2. 指導指針の普及と検証から改定へ
1） 実地検証・アンケート調査
2） ジュニア用テキスト作成・副教材開発
3） 保護者用ハンドブック作成
- 指導指針発行後の普及と検証に伴う、視察とアンケート調査の実施。改定に向けた研究
- ジュニアが使用する、指導指針に対応したテキストの作成。地域クラブはもちろん、学校教育にも活用されやすいテキストを目指す。副教材の開発も視野に入れておく
- 保護者向け教育ハンドブックの作成。子どもがジュニア教育を受ける環境には、保護者（家庭）の直接・間接的な影響がある。一番のサポーターとしてのあり方を具体的な表現で伝えることにより、共に子どもの成長を手助けすることが可能になる

3. 指導者養成システムの構築から策定へ
1） 研修会の開催
2） 指導者養成プログラム研究開発
3） ジュニア＆ユース連絡協議会の開催
- 指導者養成システム・プログラムを意識した研修会の開催。情報伝達・共有、ジュニア担当者の交流
- 養成プログラムのガイドライン策定。指導者養成事業スタート。新たな制度（資格）として、ジュニア教育サポーター（保護者・学校教員・学生など）を検討

- ジュニア＆ユース連絡協議会の開催。小中高校教員のネットワーク構築と学校におけるライフセービング教育の可能性を探る

4. ジュニア競技会の発展と充実

1） 実行委員会の充実
2） 運営マニュアルの作成

- 従来の競技運営委員会とジュニア教育委員会からなる実行委員会の充実。役割分担の明確化。競技会方向性の検討とともに拡大・充実を探る
- ジュニア競技会に特化した運営マニュアルの作成

5. 協力事業としての岩井臨海学校

1） 今後の方向性について検討
2） 指導員確保の方策

- 指導員確保のシステムが確立され、応募が増えることで多くの問題が解消できる

6. ファンデーションプログラムとしてのジュニア教育

1） 他団体とのコラボレーションの可能性を探る
2） プログラム内容の精選と検討

- すべての活動の底辺（基盤）に位置づけられることを目指す

＜ゴールプランとして＞

1. ジュニア教育の 3 つの方向性 （ジュニア教育の実態調査報告書より）

- 地域クラブでの充実
- 学校教育への導入
- ファンデーションプログラムとしての確立。

2. 長期的な視点による「一貫指導教育システム」

- 日本の指導者全員が持つ考え方としての「一貫指導教育システム」。クラブや指導者が変わっても、“日本のスタンダード”として、ぶれない意識を指導者が共有するシステムつくりを目指す。ジュニア教育から継続した指導をすることにより、「セルフレスキュー」から「レスキュー」を可能にする心身を育み、「事故防止の精神」から「支え合う社会創造」を可能にする人間つくりが期待できる。
- ジュニア教育指導者は、“ライフセービング”で「人間教育」をする人。その人の人間性が子どもに大きな影響を与える。ジュニア期は目的ではなく手段として“ライフセービング”を活用したい。“オン・ザ・ビーチ”だけではなく“オフ・ザ・ビーチ”においても「人間教育」を意識したい。挨拶・礼儀・マナー・準備片付けなどあたりまえができるように。
- 水辺に限らない、“ライフセービングスピリット”を伝える道徳教育（広義の生命教育）の教材開発は、ジュニア教育年間プログラムのヒントになり得るのではないだろうか。
- スポーツのチカラを信用し、自然体験活動から得られる効用を最大限利用する。「救助力向上＝競技力向上」であるように、ジュニア期からのライフセービング競技（スポーツ）を正しく・積極的に伝えるシステムつくりの必要性。

# ジュニア・ライフセービング教室　＜実施報告＞

- ジュニア・ライフセービング教室の実施
  - 期間:2009 年 7 月～9 月
  - 内容:生命教育を軸に、海の安全についての基礎知識を学び、海での自己防衛技術、人命救助術を体験。また、ビーチフラッグス競技、ジュニアボードレース等を実施し海を楽しみながら安全意識の啓蒙を図った。
  - 対象:小学生・中学生、場合によってはその保護者も対象とした
  - 場所:各クラブの活動浜またはプール、学校施設等
  - 支援物件:
    - ジュニア用ニッパーボード 36 本／ジュニアテキスト 3000 部／ﾊﾟﾄﾛｰﾙｷｬｯﾌﾟ 750 枚
    - 各クラブ支援;ジュニア用ボード2本／ジュニアテキスト適宜配布／ﾊﾟﾄﾛｰﾙｷｬｯﾌﾟ適宜配布／横断幕
  - 目標人数:50 名×15 ヶ所＝計 750 名
- 実施結果
  - 18 ヶ所
  - 参加合計　890 名

【実施状況】

| | 日時 | 場所 | クラブ | 募集対象 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 6/28 | 柏崎中央海岸 | 柏崎 LC | 小学 3 年生～中学 3 年生 | 20 名 |
| | 7/10 | 柏崎中央海岸 | | 柏崎翔洋中学校 1,2 年生 | 170 名 |
| | 7/26 | 鯨波海岸 | | 小学 3 年生～中学 3 年生 | 16 名 |
| | 10/25 | 柏崎アクアパーク | | 小学 3 年生～中学 3 年生 | 10 名 |
| 2 | 7/1～3 | 日間賀小・中体育館<br>西浜 or 東浜(愛知県) | 愛知 LC | 小学校 6 年生と中学校 3 年生 | 小学生 40 名<br>中学生 20 名 |
| 3 | 7/12 | 大磯海岸 | 大磯 LC | 小学生(40 名) | 小学生 22 名 |
| 4 | 7/18,19 | 青島海水浴場 | 宮崎 LC | 小学生(各 20 名) | 小学生 40 名 |
| 5 | 7/19 | 横須賀市立神明小学校プール | 葉山 LC | 小学生(60 名) | 小学生 60 名 |
| 6 | 7/22 | 片瀬西浜海岸 | 西浜 SLSC | 小学生 30 名 | 7 名 |
| 7 | 7/5,26<br>8/2.9.15 | 大竹海岸(茨城県鉾田市) | 大竹 SLC | 小学校 3 年生～中学校 3 年生<br>(各 20 名) | 小・中学生<br>88 名 |
| 8 | 8/2 | 勝浦中央海水浴場<br>(千葉県勝浦市) | 勝浦 LC | 小学生以下(40 名) | 30 名 |
| 9 | 8/7 | 大洗サンビーチ | 大洗 SLC | 小学校 4～6 年生 | 21 名 |
| 10 | 8/8 | 前原海岸(千葉県鴨川市) | 鴨川 LC | 小学生 30 名 | 32 名 |
| 11 | 8/8 | 海の公園海水浴場 | 横浜海の公園 LC | 小学生 30 名 | 79 名 |
| 12 | 8/9 | 相良サンビーチ | 相良 SLC | 小学校 3～6 年生 | 15 名 |
| 13 | 8/16 | 島郷海水浴場 | JLA 中部支部 | 小学生 | 35 名 |
| 14 | 8/16 | 渋川海水浴場 | 岡山 LC | 小学校 3～6 年生 | 19 名 |
| 15 | 8/16 | 阿児の松原海水浴場 | 大阪 LC | 幼児～小学校 6 年生 | 30 名 |
| 16 | 8/16 | 大分市田ノ浦ビーチ | 大分 LC | 小学生 30 名 | 16 名 |
| 17 | 9/1 | 恵庭市立島松小学校 | 小樽 LC | 小学校 3～5 年生 | 80 名 |
| 18 | 9/27 | 北谷公園サンセットビーチ | 北谷公園<br>サンセットビーチ LC | 一般 | 40 名 |

- 主　催:柏崎ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 6 月 28 日　9:00-11:00
  - 場　所:柏崎中央海岸(新潟県柏崎市)
  - 参加数:小学校 3 年生から中学校 3 年生まで/20 人
  - 指導員:遠藤望　須田好美　矢田孝幸　壁下智美　浜田美保　五十嵐勉
  - ねらい:まずは海の楽しさを実感することに主眼を置き、その中で仲間を思う気持ちを養う。

- 主　催:柏崎ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 10 日　9:00-16:00
  - 場　所:柏崎中央海岸(新潟県柏崎市)
  - 参加数:柏崎翔洋中等学校/1, 2 年生　 170 名
  - 指導員:池谷　薫、青木克浩、若狭雄二
  - ねらい:市民総ライフセーバー」の実現を目指し、海の町柏崎の子供達にライフセービングを通じて、海のすばらしさや楽しさを伝える。また、セルフディフェンス、他人を思いやる心や精神を学ばせる。
  - ※荒天のためプログラム中止。

- 主　催:柏崎ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 26 日　9:00-11:00
  - 場　所:鯨波海岸(新潟県柏崎市)
  - 参加数:小学校 3 年生から中学校 3 年生まで/16 人
  - 指導員:後藤、元井、船岡、浜田、ダイゴ
  - ねらい:　実際に海岸でのパトロールを通じて、ライフセーバーは何をするのかをしってもらう。

- 主　催:柏崎ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 10 月 25 日　9:00-11:30
  - 場　所:アクアパーク内レジャープール
  - 参加数:ジュニアフリッパーセミナー参加者　28 人
  - 指導員:遠藤(望)、青木、池谷、後藤、遠藤(雅)、浜田、船岡、五十嵐
  - ねらい:プールでのスキルの向上。競技会での競技種目の体験

- 主　催:愛知ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 1 日(水)　9:30-12:00
  - 場　所:日間賀島東浜、西浜(愛知県知多郡)
  - 参加数:日間賀小学 5 年生　18 人
  - 指導員:鈴木雄三、他 8 人
  - ねらい:地元の海を楽しみ、セルフレスキュー／レスキュー体験を通して、命の重さ、大切さを実感する。ライフセービングは誰もが参加できること、一人よりもチームの方が力を発揮できることを知る。

- 主　催:愛知ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 2 日(木)、3 日(金)　9:30-12:00、13:30-16:00
  - 場　所:日間賀島東浜、西浜(愛知県知多郡)
  - 参加数:日間賀小学 6 年生　22 人、中学校 3 年生 20 人　合計 42 人
  - 指導員:鈴木雄三、他 8 人
  - ねらい:地元の海を楽しみ、セルフレスキュー／レスキュー体験を通して、命の重さ、大切さを実感する。ライフセービングは誰もが参加できること、一人よりもチームの方が力を発揮できることを知る。

- 主　催:大磯ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 12 日(日)　7:00-12:00
  - 場　所:大磯海水浴場(神奈川県大磯町)
  - 参加数:22 人
  - 指導員:加藤文恵、他 8 人
  - ねらい:海の楽しさ、海の危険性を体験・勉強してもらい、海を身近に感じてもらいたい。また、ニッパーボード等を使いライフセーバーの気分を少しでも味わってもらう。

- 主　催:宮崎ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 18, 19 日　10:00-13:00
  - 場　所:青島海水浴場(宮崎県宮崎市)
  - 参加数:40 人
  - 指導員:藤田和人、尾田智史、他
  - ねらい:　海を知り、海を楽しむ。仲間とともに生命の大切さを学び助け合いの気持ちを養う。

- 主　催:葉山ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 19 日　10:00-12:00
  - 場　所:横須賀市立神明小学校
  - 参加数:神明小学校、明浜小学校児童 1～6 年生(1～3 年生は保護者同伴)60 人
  - 指導員:葉山ライフセービングクラブ　クラブ員
  - ねらい:水辺の安全について、まず自分が助かるには又、大事な人を助けるには(危険から守るには)親と子、友達同士で行動し、人とのふれあいを感じながら命の大切さを認識してもらう。

- 主　催:西浜サーフライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 22 日　9:00-12:00
  - 場　所:片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)
  - 参加数:小学生　7 人
  - 指導員：新山真衣、岩田貴美子
  - ねらい：海の知識を高め、仲間と安全に楽しく遊ぶ力を養う。また、自然に触れ合うことで環境美化への興味関心を高める。

- 主　催:大竹サーフライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 7 月 5 日、26 日(土)、8 月　2 日、9 日、15 日(土)全日程時間帯→　9:00-11:00、13:00-15:00
  - 場　所:大竹海岸(茨城県鉾田市)
  - 参加数:小学生・中学生　88 人(全日程通して)
  - 指導員:山田桃子　他 10 人
  - ねらい:自然(砂浜・波打ち際・海中)の中で、人(参加者・保護者・指導員)と関わり合いながら心を開放し、お互いを認め合い、命の大切さを学ぶ。

- 主　催:勝浦ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 2 日　10:00-12:00
  - 場　所:勝浦中央海水浴場(千葉県勝浦市)
  - 参加数:小学生　50 人
  - 指導員：灰野亮、他 8 人
  - ねらい:海での活動を通じて人との関わり合いの中から命の大切さ、仲間との達成感を目指す。

- 主　催:大洗サーフライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 7 日　9:00-12:30
  - 場　所:大洗サンビーチ(茨城県大洗町)
  - 参加数:小学生　21 人
  - 指導員:足立正俊、林尚史、久保庭秀和、他 2 人
  - ねらい:海という楽しくて危険な素材を教育資源として「生きる力」をヒントにして与える。海を好きになってもらう。

- 主　催:鴨川ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 8 日　10:00～13:00
  - 場　所:前原海岸(千葉県鴨川市)
  - 参加数:小学生以上 32 人
  - 指導員:神田俊平、伊藤慶、梅田果歩、その他クラブ員 7 名
  - ねらい:砂浜、海での体験を通して自分1人でのあり方、多くの人との関わりの大切さを学び、命の大切さを学ぶ。

- 主　催:横浜海の公園ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 8 日　①9:00～12:00　②13:00～16:00　③9 日 10:00～15:00
  - 場　所:横浜海の公園(神奈川県)
  - 参加数:小中学生　①21 人　②28 人　③20 人
  - 指導員:岡田早織、他 13 名
  - ねらい:①自然や人とふれあい、おもいやりの心を学んでもらう。②将来のライフセーバーになりたいと思うきっかけにする。

- 主　催:相良サーフライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 9 日　9:00-12:00
  - 場　所:相良サンビーチ(静岡県静岡市)
  - 参加数:小学生　15 人
  - 指導員:安藤里美、他 3 人
  - ねらい:地元の子供たちに、地元の海の良さ、自然との関わり合いを伝える。

- 主　催:日本ライフセービング協会中部支部
  - 日　時:平成 21 年 8 月 16 日　①10:00～12:00　②14:00～15:30
  - 場　所:島郷海水浴場(静岡県沼津市)
  - 参加数:幼児～小学生　①19 人　②16 人　合計 35 名
  - 指導員:石原進介、他 6 人
  - ねらい:水辺(海水浴場)の楽しさとライフセービングの活動や役割を知ってもらう。

- 主　催:岡山ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 16 日　13:00-16:30
  - 場　所:渋川海水浴場(岡山県玉野市)
  - 参加数:小学生　19 人
  - 指導員:藤井正弘、高橋聡、他 12 人
  - ねらい:生命の尊さや自然の大切さを知り地元の環境保全や社会奉仕活動の基礎を養う

- 主　催:大阪ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 16 日　11:00-13:00
  - 場　所:阿児の松原海水浴場
  - 参加数:30 人
  - 指導員:大畠依子、他 4 人
  - ねらい:水辺の活動の中で、楽しみながら自然のしくみを学び、人のふれあいを通じて命の大切さや助け合うことの大切さを理解する。

- 主　催:大分ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 8 月 16 日 13:00-16:00
  - 場　所:田ノ浦ビーチ(大分県大分市)
  - 参加数:小学生　16 人
  - 指導員:森智史、岸川敬子、古賀祐介、尾田智史
  - ねらい:ライフセービング体験を通じて、チームワーク力を養いお互い助け合いながらプログラムを達成し、たくましく成長していくこと。

- 主　催:小樽ライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 9 月 1 日(火)　13:00-16:00
  - 場　所:恵庭市立島松小学校プール
  - 参加数:80 名
  - 指導員:大平拓司、鈴木啓太、小柳圭太、鈴木梢、九澤明日奈、橋本慎吾
  - ねらい:「水」をキーワードに楽しい仲間との関わりあいの中からお互いを尊重し、助け合う心を育てるとともに、命の大切さを学び、何か起きたときに自分自身で考えて行動できる人間になる。

- 主　催:北谷公園サンセットビーチライフセービングクラブ
  - 日　時:平成 21 年 9 月 27 日　10:00-15:00
  - 場　所:北谷公園サンセットビーチ(沖縄県中頭郡)
  - 参加数:5 歳～中学 1 年生　28 人
  - 指導員:音野太志、他 4 名
  - ねらい:「自然・人と触れ合い、そして楽しむ」クラブ理念を学びます。

【実施内容】

●プログラム内容（約3～4時間プログラム）

・スタッフ紹介、自己紹介
・準備体操
・水なれ、サーフフィットネス（インアウトやウェーディングの練習）
・サーフサバイバル（浮き身の練習、大きな声で叫ぶ練習、バックストロークの練習）
・ビーチクリーン
・1日のスケジュールの確認
・今日の目標
・ジュニアテキストを使用しての海の安全11か条
・バディーシステム（健康管理）
・危険生物の勉強
・水中でのシグナルのお勉強
・ライフセーバー使用器材の説明
・海象調査
・監視タワーに登ってライフセーバー体験
・レスキュー体験（水に入らずに道具を使ってのドライレスキュー方法を学ぶ）
・流れ体験（プールに流れを作り、水の力を体験する）
・ライフセーバーによるデモンストレーションを見る
・セルフレスキュー、ドライレスキュー（ロープやビニール袋を使用して自分を守る方法を知る）
・ライフセービング競技ビーチフラッグスを体験
・ニッパーボード
・レスキューチューブ体験（人を引っ張ることで命の重さを知る）
・心肺蘇生法、救急法の勉強（命の大切さを伝える）
・みんなでライフセービングリレー
・チームレスキュー（搬送やレスキュー方法を考え、挑戦させる）
・本日のまとめ、振り返り（行ったことを振り返り、仲間に自然に全てに感謝をする）

●一日のタイムテーブルの例（2時間）

10:00～10:10 【開校式】ライフセービング・オリエンテーション
10:10～10:30 海の安全11か条
10:30～10:40 ビーチクリーン
10:40～10:45 休憩（水分補給）
10:45～10:50 バディーシステム
10:50～11:00 準備運動・水なれ
11:00～11:10 レスキューデモンストレーション
11:10～11:20 サーフフィットネス
11:20～11:25 休憩（水分補給）
11:25～11:45 ニッパーボード、ビーチフラッグス体験
11:45～12:00 【閉校式】振り返り、記念撮影

【活動写真】

YULC
YOKOHAMA UMI-NO KOEN LIFESAVING CLUB
ジュニア・ライフセーバー教室

El niño
OARAI S.C
Junior Lifesaving School
ジュニア・ライフセービング教

Junior Lifesaver School
ジュニア・ライフセーバー教室
日本ライフセービング協会

# ジュニア・ライフセービング教室における保護者の意識調査　＜調査報告＞

- ジュニア・ライフセービング教室における保護者の意識調査
  - 期間：ジュニア教室開催時、または開催後
  - 内容：ジュニア教室参加の保護者に対するアンケート調査。保護者の視点からのジュニア・ライフセービングに対する認知や意見を収集し、求められるジュニア指導のあり方を検証する。
- 実施結果
  - 1支部と3クラブの教室より回収　；　37件
  - 今回はアンケート実施の様子を探り、そこからキーワードを抽出することで、次年度以降のアンケート集計をより数値化できるようにする。

## 集計結果

### １）保護者（37 名）プロフィール

①参加者との関係

母親の引率が 73%（27 名）であり、母親に対するアプローチが重要であることが伺える。

②保護者（引率者）の年齢

30 歳代前半が 7 名・30 歳代後半が 20 名であり、30 歳代にて 73%を占めることになる。

③参加のきっかけ（複数回答）

当日の呼びかけにて 24%（9 名）が参加を決めている。友人の誘い 19%（7 名）とチラシ・インターネットの 16%（6 名）を含めると、59%になり有効な告知や情報発信が参加者を増やすことがわかる。

④参加の目的（複数回答）

海の楽しさや体験活動というような内容が 35%（13 名）であった。海の知識や危険性を学ばせたいというような内容が 22%（8 名）であった。合わせると 57%であり、海での教養（知識・遊び・体験活動）を求めている様子が伺える。

⑤休日の過ごし方（複数回答）

海・プール（アウトドア含む）で遊ぶが 41%（15 名）であり、様々なスポーツ活動を合わせると、アクティブに過ごす家庭が多いようである。

### ２）参加者（51 名）プロフィール

①年齢・学年

小学校低学年（1~3 年）39%（20 名）・小学校高学年（4~6 年）37%（19 名）

②性別

男子 67%（34 名）　女子 33%（17 名）

③参加経験

初回 55%（28 名）　2 回以上 18%（9 名）　不明（14 名）

④運動・スポーツ経験（複数回答）

サッカー8%（5 名）　水泳 8%（5 名）　マリンスポーツ 6%（3 名）
なし 6%（3 名）

⑤習い事（複数回答）

塾 14%（7 名）　スイミング 8%（5 名）　習字 8%（5 名）

### ３）ジュニア教室の評価

①内容　とても良い 86%（32 名）　まあまあ良い 11%（4 名）
②時間　とても良い 51%（19 名）　まあまあ良い 49%（18 名）
③場所　とても良い 84%（31 名）　まあまあ良い 16%（6 名）
④指導　とても良い 89%（33 名）　まあまあ良い 8%（3 名）
⑤告知　とても良い 43%（16 名）　まあまあ良い 38%（14 名）
あまり良くない 14%（5 名）

## ４）ライフセービング観

①保護者のライフセービングイメージ（複数回答）

健全なイメージ・標準的なイメージがあるように思う。

・人命救助、海の監視　　41%（15 名）
・かっこいい、安心感、勇敢　　35%（13 名）

②子どものライフセービングイメージ（複数回答）

健全なイメージ・標準的なイメージがあるように思う。

・かっこいい　（5 名）
・海で助ける　（3 名）

③ジュニア教育への期待（何を学んでほしいか）（複数回答）

ジュニア・ライフセービング教育にて育みたいものと合致している。今後も継続して、その具現化・具体化に向けて取り組む必要性あり。

・海の楽しさや溺水予防・対処　　65%（24 名）
・人間形成（協調性やコミュニケーション、マナーなど）　46%（17 名）
・命の大切さ　　19%（7 名）
・環境問題や自然保護　　14%（5 名）

④保護者プログラムに望むもの（複数回答）

救助法や海で一緒に体験したいなど前向きな意識が高く、保護者のそのような意識が子どもを参加させている可能性が大きい。

・心肺蘇生法、救助法、レスキュー体験　　27%（10 名）
・ライフセービング競技、ボード　　19%（7 名）
・子どもと同じプログラム、親子ゲーム　　11%（4 名）

⑤次回参加の希望

・希望する　13 名　　・希望しない　0 名

# 保護者アンケート

日本ライフセービング協会
ジュニア教育委員会

このたびは、ジュニア・ライフセービング教室に参加していただきありがとうございます。今後のジュニア・ライフセービング教育発展のため、アンケートにご協力ください。
よろしくお願いします。　（アンケート回答は自由に記入してください。）

## １．保護者（回答者）についての質問です。

１）参加者との関係　（　　）
２）保護者の年齢　（　　才　）
３）参加のきっかけ　（　　）
４）参加の目的　（　　）
５）休日の過ごし方　（　　）

## ２．参加者についての質問です。

１）年齢・学年　（　　才　・　　年生　）
２）性別　（　男子　・　女子　）
３）ジュニア教室参加経験（　初めて　・　　回目　）
４）運動・スポーツ経験　（具体的に：　　）
５）習い事　（具体的に：　　）

## ３．本日のジュニア・ライフセービング教室についての質問です。

１）内容　（　とても良い・まあまあ良い・あまり良くない・とても良くない　）
２）時間　（　とても良い・まあまあ良い・あまり良くない・とても良くない　）
３）場所　（　とても良い・まあまあ良い・あまり良くない・とても良くない　）
４）指導　（　とても良い・まあまあ良い・あまり良くない・とても良くない　）
５）告知　（　とても良い・まあまあ良い・あまり良くない・とても良くない　）

## ４．ライフセービング全般についての質問です。

１）ライフセービングのイメージは？
保護者

お子様

２）ジュニア・ライフセービング教育に何を期待しますか？
ジュニア・ライフセービング教室を通してお子様に何を学んでほしいですか？

３）ジュニア・ライフセービング教室にて保護者プログラムがあるとしたら、
どんなことをやってみたいですか？

４）ジュニア・ライフセービング教室に次回も参加したいですか？
参加する場合、何を望みますか？

５）その他

以　上

# ジュニア・ライフセービング指導指針および ジュニア・ライフセービング指導者養成システムの プログラム開発　＜実施報告＞

## １）　ジュニア教育委員会（会議）での協議

- 年間を通じて委員会を開催し、各ジュニア諸事業における指導指針の普及と検証ならびにジュニア指導者養成について協議した。

- 実施日
  - 04 月 12 日（日）
  - 05 月 10 日（日）
  - 09 月 05 日（土）
  - 10 月 17 日（土）
  - 11 月 08 日（日）
  - 12 月 15 日（火）
  - 01 月 30 日（土）
  - 03 月 06 日（土）
  - 03 月 24 日（水）

- 協議プロセス
  - 平成17年度の調査研究を経て、「平成18年度ジュニア・ライフセービング教育の実態調査報告書」発行
  - 平成17年度より日本財団助成「指導者養成システムの調査研究」の継続実施
  - 「平成19年度　ジュニア・ライフセービング教育　指導指針」発行
  - 平成20年度は指導指針を中心とした指導者研修会を実施。指導者養成に向けた具体的なカリキュラムの検討。小峯理事長を交えてジュニア委員会を実施、指導者の在り方についての方向性を議論
  - 平成21年度はジュニア教室、参加保護者のアンケートなどにより、客観的に指導の在り方やニーズを検証。指導者養成を視野に入れたカリキュラムにて、関東、関西の2会場において指導者研修会を実施

- 指導者資格の存在意義と課題
  - （仮称）　ジュニア・ライフセービング　インストラクター
  - 資格コンセプト
    - 『JLA活動における「教育」の在り方を理解し、あらゆる環境下（水辺に限定されない）において子どもの発育発達に応じた体験活動を実施し、ライフセービングの精神を正しく伝えていける情熱と資質を高めていく』
  - そうすることで・・・
    - 子どもを指導する責任感を高め、社会的認知を積み上げる（保護者への対応）
    - 地域クラブにおける継続可能なジュニア活動の展開が可能（指導者の質を確保）
    - 学校教育、他団体交流への展開を視野に入れた活動実践
    - 指導指針に基づく基本姿勢と、地域を生かしたオリジナリティーとの共存共栄
    - 指導者ネットワークの構築と研修の場の創造（研究発表・指導者交流）
  - 年度内の課題
    - 国際ライフセービング連盟（ILS）資格との連動をあらかじめ視野に入れるかの検証
    - 受講条件の検討・他資格との連動性
    - 教科書や副教材の開発
    - ジュニアの現場における資格所持者と未取得者の在り方
    - 平成21年度実施の指導者研修会の検証
    - 指導指針の改定（指導者の教本にリンク）
    - 子どもたちが取得するジュニア資格の検討

- ジュニア教育指導者養成のガイドライン策定（案）
  - 専門カリキュラム（案）
    - ジュニア・ライフセービング概論
    - 乳児・幼児CPR
    - 教育（学習指導要領）について
    - ワークショップ （3つのテーマに沿ってのレクリエーション、ジュニア教室のマネジメント）
    - 障害児の対応について （「福祉」を視野に含めたテーマ）
    - 現代の子ども事情～日本の子どもたち～

＜専門カリキュラム・例＞

■ジュニア・ライフセービング概論（案）

【研修09・20分】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 |
|---|---|---|---|---|
| | 導入 | | | 今夏の夏のジュニア教室や競技会の実績に触れ、協会を代表し感謝申し上げる。 |
| 日本の子どもたちとライフセービング | 事故防止の精神を社会へ | 10 | 0 | JLAミッションにおけるジュニア教育の理念を伝え、ジュニア目標についても再認識いただく。 |
| | ジュニア・ライフセービング教育の現状 | | 0 | 体験活動としての社会的認知から、次なるステージへ（地域性を高め、再体験の気持ちを満たせる活動形態へ） |
| | 指導指針発行の経緯と今後の課題整理 | | 0 | 指導指針発行の経緯を理解し、今後の課題を共有する |
| ジュニア・ライフセービング教育　の可能性 | 継続的活動の効果 | 10 | 0 | 地域性を生かした活動から得られる可能性。ライフセーバーの再活動の場となり得る。相乗効果を期待。ライフセービングという題材そのものが指導者にとっての「危機管理」となり、学ぶ子どもたちにとっての「危機回避」につながる。 |
| | 地域ジュニアを核とした広がり | | 0 | 「いつでも、どこでも、だれにでも」を基本においた活動姿勢。他団体との共存共栄。 |
| | 学校におけるジュニア教育 | | 0 | 実践例をもとに、その実施形態を認識いただく。また協会としてもそのニーズに対応しうる指導者の質を確保していきたい。指導者養成について触れる。 |
| | まとめ | | | ジュニア教育は“事故を未然に防ぐ”という協会理念と合致する。「事故を起こさない人」を多く輩出していく。全国地域の各クラブにジュニアのカテゴリーが定着していくことを展望としたい。 |
| 合　計 | | 20 | 0 | |
| | | 20 | | |

■乳児・幼児CPR（案）

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 |
|---|---|---|---|---|---|
| ジュニア教室現状 | CPRコンテストの現状 | 8 | | 全日本、学生選手権でのCPRコンテスト結果をもとにライフセーバーのCPR手技の現状を知る。 | |
| | CPR年齢区分 | | | CPR年齢区分を理解する。 | |
| | 第一三共ジュニア教室参加者区分 | | | ジュニア教室に参加している子どもの区分を知る。 | |
| | 指導者の任務について | | | 水泳指導者を例に、指導者の任務は「安全管理」が最優先されることを理解する。 | |
| 小児・乳児CPR | 一次救命処置の年齢別比較 | 10 | 0 | 一次救命処置の年齢別比較表をもとに技術の確認を行う。<br>同時に小児のデモンストレーションを行う。 | |
| まとめ | | 1 | | 小学生が父親を救命した事例をあげ、ジュニア教室で子どもたちに救急法の技術伝達の必要性を確認する。 | |
| 合　計 | | 19 | 0 | | |
| | | 19 | | | |

## ■教育(学習指導要領)について(案)

【教育法規】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育法規 | 日本国憲法 | 5 | 0 | 日本国憲法における我が国の教育にかかる条文について理解する。 | | 教育小六法等 |
| | 教育基本法 | 20 | 0 | 第一章　教育の目的及び理念<br>　教育の目的／教育の目標／生涯学習の理念／教育の機会均等<br>第二章　教育の実施に関する基本<br>　義務教育／学校教育／大学／私立学校／教員／家庭教育／幼児期の教育／社会教育／学校，家庭及び地域住民等の相互の連携協力／政治教育／宗教教育<br>第三章　教育行政<br>　教育行政／教育振興基本計画<br>第四章　法令の制定<br>以上について，理解する。 | | 小学校学習指導要領 |
| | 学校教育法 | 20 | 0 | 第二章　義務教育<br>第四章　小学校<br>第八章　特別支援教育<br>以上について，理解する。 | | 小学校学習指導要領 |
| | 学校教育法施行規則 | 5 | 0 | 第四章　小学校<br>　第二節　教育課程<br>第八章　特別支援教育<br>附則<br>以上について，理解する。 | | 小学校学習指導要領 |
| 合　計 | | 50 | 0 | | | |
| | | 50 | | | | |

【教育・指導要領】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 幼稚園<br>教育要領 | | 10 | 0 | 第１章　総則<br>　第１　幼稚園教育の基本<br>　第２　教育課程の編成<br>　第３　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など<br>以上について，理解する。 | | 幼稚園教育要領 |
| 小学校<br>学習指導要領 | | 30 | | 第１章　総則<br>　第１　教育課程編成の一般方針<br>　第２　内容等の取扱いに関する共通的事項<br>　第３　授業時数等の取扱い<br>　第４　指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項<br>以上について，理解する。 | | 小学校学習指導要領 |
| 中学校<br>学習指導要領 | | 10 | 0 | 第１章　総則<br>　第１　教育課程編成の一般方針<br>　第２　内容等の取扱いに関する共通的事項<br>　第３　授業時数等の取扱い<br>　第４　指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項<br>以上について，理解する。 | | 中学校学習指導要領 |
| 合　計 | | 50 | 0 | | | |
| | | 50 | | | | |

【指導法】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 指導計画作成 | 指導案の作成 | 5 | | ジュニア・ライフセービング教育指導指針に基づいた指導案を作成する。 | | ジュニア<br>・ライフセービング<br>教育指導指針 |
| 指導実践 | 指導案に基づいた指導実践 | 5 | 30 | 指導案に基づいた指導を実践する。 | | |
| 指導評価 | 指導と評価 | 5 | | 指導案に基づいた指導実践を評価する。 | | |
| 指導総括 | 指導の総括 | 5 | | 計画・実践・評価をもとに次につなげるための総括を行う。 | | |
| 指導方法 | 実態把握と導入 | 5 | | 対象者の実態把握とそれに基づいた導入について理解し，実習する。 | | |
| | 全習法と分習法 | 5 | | ２通りの学習伝達方法を理解し，実習する。 | | |
| | ティーム・ティーチング | 5 | 30 | ティーム･ティーチングについて理解し，実習する。 | | |
| | 配慮を要する対象者 | 5 | | 配慮を要する対象者について理解する。 | | |
| 合　計 | | 40 | 60 | | | |
| | | 100 | | | | |

【マネジメント】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| マネジメント | イシュー・マネジメント<br>リスク・マネジメント<br>クライシス・マネジメント | 20 | 0 | イシュー・マネジメント，リスク・マネジメント，クライシス・マネジメントについて理解し，ジュニア・ライフセービング教育に係るマネジメントについて考える。 | | 【参考文献】<br>「説明責任」とは何か（ＰＨＰ新書）井之上喬 |
| | 同意書 | 10 | 0 | 参加者（児童，生徒）の保護者に対する「同意書」作成について理解する。 | | |
| | プログラム実施判断基準 | 20 | 0 | 天候不順等の環境要因による実施判断について理解する。 | | 【参考資料】<br>岩井臨海学園指導員マニュアル<br>ジュニア・ライフセービング競技会実施規準 |
| 合　計 | | 50 | 0 | | | |
| | | 50 | | | | |

## ■障害児の対応について(案)

【特別支援教育】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 特別支援教育 | いのちについて | 3 | | 「生かし合う・高め合う教育」について | | |
| | 特別支援教育 | 5 | | 特別支援教育の基本的な考え方を知る | | |
| 基本的事項 | 全人教育 | 3 | | 全人教育による視点知る | | |
| | 実態把握のポイント | 3 | | 実態把握する上でのポイントを知る | | |
| 支援の仕方 | 声かけの基本 | 3 | | 支援が必要な人に対しての声かけの配慮事項を知る | | |
| | プログラムに入る前に | 3 | | プログラムに入る前の注意点を知る | | |
| 合 計 | | 20 | | | | |

## ■現代の子ども事情(案)

【子どもと社会】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもと社会 | 子どもの現状 | 5 | 0 | 子どもの死生観を通して現状を学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもと環境の変化 | 15 | 0 | 子どもを取り巻く社会環境の変化を学び、子どもを理解する。 | | |
| | 日本と世界の子ども | 15 | 0 | 日本や世界の子ども達について学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもと親(保護者) | 15 | 0 | 子ども親(保護者)の関係や現状を学び、子ども理解する。 | | |
| 合 計 | | 50 | 0 | | | |
| | | 50 | | | | |

【子どもの特徴】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもの特徴 | 子どもの成長 | 5 | 0 | 子どもの健全な成長について学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもの心 | 15 | 0 | 思春期について子どもの現状を学び、子ども理解する。 | | |
| | 子どもの身体 | 15 | 0 | 発育発達について子どもの現状を学び、子ども理解する。 | | |
| | コミュニケーション | 15 | 0 | コミュニケーションについて子どもの現状を学び、子ども理解する。 | | |
| | | 50 | 0 | | | |
| | | 50 | | | | |

【研修09・20分】

| タイトル | 項目 | 時間 学科 | 時間 実技 | 目標と内容 | 留意点 | 教材・器材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 子どもと社会 | 子どもの現状 | 5 | 0 | 子どもの死生観を通して現状を学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもと環境の変化 | 5 | 0 | 子どもを取り巻く社会環境の変化を学び、子どもを理解する。 | | |
| | 日本と世界の子ども | 0 | 0 | 日本や世界の子ども達について学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもと親(保護者) | 0 | 0 | 子ども親(保護者)の関係や現状を学び、子どもを理解する。 | | |
| 子どもの特徴 | 子どもの成長 | 0 | 0 | 子どもの健全な成長について学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもの心 | 4 | 0 | 思春期について子どもの現状を学び、子どもを理解する。 | | |
| | 子どもの身体 | 5 | 0 | 発育発達について子どもの現状を学び、子どもを理解する。 | | |
| | コミュニケーション | 1 | 0 | コミュニケーションについて子どもの現状を学び、子どもを理解する。 | | |
| 合 計 | | 20 | 0 | | | |
| | | 20 | | | | |

## 2） ジュニア教室・現地視察の実施

- ジュニア教室・現地視察の実施
  - ジュニア教室をジュニア教育委員が現地視察し、指導指針の普及と検証を実施
  - 7 月 19 日に青島海水浴場（宮崎県宮崎市）で宮崎ライフセービングクラブが実施したジュニア教室を現地視察

| 実施クラブ | 宮崎ライフセービングクラブ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日　時 | 2009年 7月 19日（日） | | 10：00 ～ 13：00 | | | |
| 場　所 | 宮崎　都・道・府・県 | | 青島　海水浴場・海岸・ビーチ・プール・（　　） | | | |
| 対　象 | 幼児 | 小学校1・2・3年 | 小学校4・5・6年生 | 中学生 | 保護者 | 合計 |
| 参加者数（人） | 0 | 7 | 8 | 0 | 5 | 20 |
| 担当者 | 藤田和人（宮崎LSC）他2名、尾田智史（大分LSC） | | | | | |
| JLAのねらい | 水辺活動における楽しさの中から，自然や人との関わりあいを学び，相互理解から命の大切さを実感することによって，たくましく豊かな人間形成を目指す。 | | | | | |
| クラブのねらい | 水辺活動における楽しさの中から，自然や人との関わりあいを学び，相互理解から命の大切さを実感することによって，たくましく豊かな人間形成を目指す。 | | | | | |
| 使用機材教具・教材 | ゲーム用自作教具、テキストブック、レスキューチューブ、ニッパーボード、パトロールキャップ | | | | | |

| 楽しさ | | 人との関わりあい | | 命の大切さ | |
|---|---|---|---|---|---|
| 活動 | 特記事項 | 活動 | 特記事項 | 活動 | 特記事項 |
| 海へのあいさつ | ハワイの言語に親しむことによる楽しさ体感。 | 海へのあいさつ | ヒューマンチェーンでのスキンシップ。 | 海へのあいさつ | 生命を育む自然に対する畏敬と感謝の気持ちを持たせる。 |
| バディ | ゲーム要素を取り入れることによる楽しさ向上。 | バディ | 年令層を考慮したペアをつくった。 | バディ | 番号確認を繰り返すことによる安全性重視姿勢。 |
| 水慣れ | 波高と参加者の身長を配慮する安全性確保と楽しさ追求。 | 水慣れ | ヒューマンチェーンでのスキンシップ。 | 水慣れ | ヒューマンチェーンでの自分を守るおたがいを守る意識高揚。 |
| クラゲ鬼ごっこ | ライフセーバーが鬼のクラゲ役になることによる親近感。みんなで力を合わせて、お互いを守りながらクラゲ退治する一体感。クラゲに刺された時の対処法。以上が盛りこまれた充実プログラム。 | クラゲ鬼ごっこ | 鬼のクラゲ役ライフセーバー、消毒液を持ったライフセーバー、子どもたち、保護者すべてがかかわり合うことができる。 | クラゲ鬼ごっこ | クラゲに刺されないように気をつける回避。クラゲに刺された時の対処。以上を体感を通して学ぶことができる。 |
| チューブレスキュー体験 | 競争・達成型ゲームとして実施することによる意欲の向上。 | チューブレスキュー体験 | 声を掛け合うことによる言語コミュニケーションと、行為による非言語コミュニケーションの両立。 | チューブレスキュー体験 | 命の重さを体感することによる「助けてもらわない自分になる」ことの大切さであるセルフレスキュー意識のかん養。 |
| ニッパーボード | 競争・達成型ゲームとして実施することによる意欲の向上。 | ニッパーボード | お互いを支え合う中で生まれるサポートスピリットのかん養。声を掛け合うことによる言語コミュニケーションと、行為による非言語コミュニケーションの両立。 | ニッパーボード | 自分の身を守るセルフレスキューとして、浮力体としてのニッパーボードを活用するという意識育成。 |
| その他気付き等 | 右手に青島を望む遠浅の青島海水浴場は、幼児から成人までの幅広い年齢層の海水浴客でにぎわっている。うねりもあり波をとらえて遊びに興じることもできる特性を持つ。ログハウスに設けられた監視本部には、浴場長が常駐し、ライフセーバーと即時連携をとることができるというシステムが構築されていた。視察中に、観光協会でバーベキュー可能と案内されてきた客に対する、現場での迅速かつ適切な連携と対応をまの当たりとした。安全に楽しんでいただける空間と時間を提供するための、ライフセービング活動及びその一環としてのジュニア・ライフセービングプログラムを見学させていただき、大いなる学びを獲得することができた。 | | | | | |
| 視察担当 | 藤井正弘 | | | | | |

## 3）ジュニア指導者研修会の実施

- ジュニア指導者研修会の実施
  - 各クラブのジュニア担当者を主な対象として、「指導指針」の普及ならびにジュニア指導者養成に向けた「ジュニア指導者研修会」を開催しジュニア指導者養成に向けたプログラムの共同開発や情報交換を実施
  - 開催日：
    - 06/20（土） 14:00～18:00　参加人数;15 名　関西会場（神戸 YMCA 学院専門学校）
    - 06/21（日） 14:00～18:00　参加人数;32 名　関東会場（成城学園高等学校会議室）
    - 11/15（日） 09:30～16:30　参加人数;38 名　関東会場（東京ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ専門学校）
    - 01/31（日） 09:30～16:30　参加人数;34 名　関西会場（神戸 YMCA 学院専門学校）
  - 内容：
    - 指導指針の確認
    - ジュニアプログラム実践例の紹介
    - ワークショップ　ほか

■6/20、6/21 のスケジュールおよび内容

| 時刻 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 900 | 更新講習会 | |
| 1300 | チーフミーティング | |
| 1400 | 開会 | 挨拶・事務連絡 |
| 1410 | | コミュニケーション |
| 1420 | プログラム説明<br>概要10分<br>プログラム<br>10分×7 | プログラム概要説明 |
| | | ①5水調査・生徒把握・機材準備 |
| | | ②点呼・デモンストレーション・ビーチクリーン |
| | | ③ビーチレクリエーション |
| | | ④F.A. |
| | | ⑤キャリー・レスキュー体験 |
| | | ⑥セルフレスキュー |
| | | ⑦ファンレース |
| 1540 | 休憩 | |
| 1550 | ワークショップ | ワークショップ説明 |
| 1600 | | グループでのワークショップ |
| 1630 | | プレゼンテーション |
| 1700 | 振り返り | 全体を通しての振り返り |
| 1730 | 事務連絡<br>質疑応答 | |
| 1800 | | 解散 |

LIFE SAVING
JLA

■11/15、1/31 のスケジュールおよび内容

| 時刻 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 9:00 | 受付 | 現地集合・受付 |
| 9:30 | 開会式 | 開会式・諸連絡 |
| 9:45 | アイスブレイク | 実践を通して学ぶ。お互いの緊張をほぐす。 |
| 10:00 | 講義 | ①ジュニア・ライフセービング概論<br>②現代の子ども達<br>③教育（学習指導要領）<br>④特別支援教育<br>⑤ジュニア教育のマネジメント<br>⑥乳児・小児のCPR |
| 12:00 | 昼食・休憩 | 昼食・休憩時間を活用して交流を図る。ジュニア映像放映。 |
| 13:00 | 実践報告 | 柏崎LSCによるジュニア・ライフセービング教育実践報告現状と課題 |
| 13:30 | 記念講演 | 講演「ジュニア・ライフセービング教育に期待すること」小峯理事長 |
| 14:15 | 休憩 | |
| 14:30 | 演習 | ワークショップ<br>テーマ 「屋内プログラムの開発」 ＜対象：小学生＞<br>①説明 5分 ③ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 10分×ｸﾞﾙｰﾌﾟ数<br>②ｸﾞﾙｰﾌﾟﾐｰﾃｨﾝｸﾞ 30分 ④ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ（評価） コメント＆総括 |
| 16:00 | ふりかえり | ふりかえりシート＋アンケート用紙記入 |
| 16:15 | 閉会式 | 閉会式・諸連絡 |
| 16:30 | 終了 | 解散 |

# おわりに（まとめ）

近年日本国内において，Lifesaving(ライフセービング)という言葉が広く認知され，その活動に携わる人々が増加傾向にあります。

日本国内におけるライフセービング活動の中核機関である日本ライフセービング協会は，教育団体です。
主たる目的は，国際的な視野から，海岸をはじめとする全国の水辺の環境保全，安全指導，監視・救助等を行うライフセービング活動の普及及び発展等に関する事業を行い，国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することにあります。

ライフセービングに出会い，ライフセービングに関わる中で先見すべきは，活動を自己完結で終始することなく，次世代へ伝えていくことです。
この“次世代へ伝えること”に存在意義を見出すのが，「ジュニア・ライフセービング教育」であり，本指導指針がその基軸となります。

1991年，日本ライフセービング協会が誕生し，10年を経て内閣府により特定非営利活動法人としての認証を受けました。ライフセービング人口は増加の一途たどり，ジュニア・ライフセービング教育も発展してきました。
そしてまもなく20年を迎えようとする今，その道程を振り返るとき，改めて日本財団の活動指針『フィランソロピー実践のための七つの鍵』に注目します。

1. あまねく平等にではなく，優先順位を持って，深く，且つ，きめ細かく対応すること
2. 前例にこだわることなく，新たな創造に取り組むこと
3. 失敗を恐れずに速やかに行動すること
4. 社会に対して常にオープンで透明であること
5. 絶えず自らを評価し，自らを教育すること
6. 新しい変化の兆しをいち早く見つけて，それへの対応をすること
7. 世界中に良き人脈を開拓すること

“七つの鍵”に学ぶ中で，『水辺活動における楽しさの中から，自然や人との関わりあいを学び，相互理解からいのちの大切さを実感することによって，たくましく豊かな人間形成を目指す』ために，今後も邁進していく所存です。

日本財団からいただいている助成は，国内でライフセービングがスパイラルに発展していき，一つの文化にまで昇華してくための源となっています。ありがとうございます。

次なる未知のライフセービングへの導きになることを予感して。

2010年3月
日本ライフセービング協会
ジュニア教育委員会一同

■報告書・完■